

# 障害と能力・才能は共存する

## アメリカにおける 2E の概念および実践からの示唆

三浦 美恵子

### 1. 問題の所在と本論の課題

文部科学省の特別支援教育資料によると、2019年5月1日時点で、国公私立の在籍者の総数は、特別支援学校<sup>1</sup>144,434人(幼稚園・小学部・中学部・高等部)、特別支援学級<sup>2</sup>278,140人(小学校・中学校・義務教育学校)、通級による指導<sup>3</sup>については134,185人(小学校・中学校・高等学校)である。過去10年間で、特別支援学校の在籍者数は3万人近い増加に留まる一方で、特別支援学級と通級指導の対象児童生徒は2倍以上となり、右肩上がり増加し続けている。

小中学校の通常学級においても、学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症など発達障害の児童生徒が約6.5%在籍している可能性が示唆されており、通常学級も多様な障害をもつ子どもたちの受け皿となっている。近年の調査では、25市町の特別支援学級において、小学校と中学校どちらについても外国人児童生徒の在籍率は日本人の約2倍あるいはそれ以上であることが報告された(文部科学省、2016)。日本人とは言語や文化的背景が異なる子どもたちの障害を識別する方法や判定の妥当性についても課題がある。

本稿では、子どもたちの障害や言語文化的背景が多様化する日本の特別支援教育に対する示唆を得ることを目的とし、障害と能力・才能の共存を意味する2E(Twice Exceptional)という概念および実践について紹介する。2Eの先進国であるアメリカに焦点を当て、政府や各州が公開している情報等から、2Eの歴史、社会的動向、法律、定義、特性や性格、2Eと思われる児童生徒の在籍状況、教育実践について概観する。

アメリカでは、ある分野(知的能力、創造力、リーダーシップ、音楽や美術など)に突出した才能をもつ子どもたちをギフテッドあるいはタレンテッド(Gifted/Talented)と呼び(以下、ギフテッド)、

公立学校においてもギフテッドを対象とした教育プログラムが提供されている。アメリカ教育省がホームページ上で公開している調査結果Civil Rights Data Collection(以下CRDC)では、2015-16年のデータが最新であると思われるが、それによると、アメリカ(51州)の公立学校55,495校に325万人以上のギフテッドが在籍していた。各州における子どもたちの総数や比率は、人種民族別(アメリカンインディアン・アラスカ、アジア、ヒスパニック、黒人、白人、ハワイや太平洋諸島、2つ以上の人種の計7つに区分)に示されており、さまざまな言語文化的背景の子どもたちがギフテッド教育の対象となる。

アメリカでは、障害であれ才能であれ、他とは異なるニーズをもつ人々を特別支援教育の対象としており、障害をもつ子どもたちのみならず、ギフテッドも特別支援教育の対象となる。また、ギフテッドの中には障害を持つ子どもたちがおり、彼らは障害と才能という二つの例外的な状態を併せ持つという意味で2Eと呼ばれている。海外の文献では少なくとも約100年前の1920年代から、障害と才能を併せもつ人々の存在について報告されており、アメリカの法律では、2Eに関する言及があるとともに、幾つかの州では、公立学校においても2Eの児童生徒を対象に小学校から高校まで一貫した教育を提供している。一方、日本で2E教育に特化した書籍が出版されたのはつい最近のことであり(松村、2018)、アメリカにおける2Eの概念および実践から日本の特別支援教育に対する示唆を得たい。

### II アメリカにおける 2E の歴史、法律、定義、識別方法

#### 1. 2E の歴史と近年の動向

心理学者かつ教育者である Hollingworth (1923)

は、特別な才能をもつ子どもが読解、算術、綴り、書くことに困難を抱えることがあり、学校は個々の違いを考慮し、個々の弱点や適性によって異なるカリキュラムを提供する必要があると述べた。Kanner (1943) は、知能指数が高い子どもに自閉症のような反復行動や社会スキルの不足が見られることについて言及し、小児科医の Asperger (1944) は、同様の特徴を持つ若い患者の中には、優れた論理的思考を持つ者、ある特定の分野に対して強烈な興味を示す者がおり、自閉症は知能指数が高い子どもにより多く現れる可能性を示唆している。

Gallagher (1966) は、それまで調査されていなかった学習障害の子どもがもつ強みに注目し、Elkind (1973) は、学習障害をもつギフテッドという概念を最初に明示した人物である。Maker (1977) は、並外れた才能に加えて身体的また認知的な障害を持つと診断される子どもについて言及し、2E のプログラムに関する初の本を出版した。Meisgeier 他 (1978) は、学習障害をもつギフテッドには、学習支援と高度なプログラムの両方を提供する必要性に加えて、このような子どもたちは才能と障害という著しい強みと弱みに直面するため、特有の感情的ニーズがあることについても指摘している。

1980年代には、とても賢いが学習や行動面で課題をもつ子どもに対する関心が高まり、幾つかの公立学校で彼らのニーズに合わせたプログラムが開始した。その後も、メリーランド州のプリンスジョージ群とモンゴメリー群で特別な学習ニーズや学習障害をもつギフテッドに対するプログラムが始まり、現在も続いている。1990年代には、ギフテッドの国立研究センターが設立され、障害をもつギフテッドを含む学業不振者のための発達プログラムに資金が提供された。2000年以降、2Eを意味する Twice Exceptional という言葉が、国や州などの政策で使用されている (Baldwin 他、2015)。

## 2. 法律

Baldwin 他 (2015) によると、1970年半ばまでに、連邦法で学習障害とギフテッドという言葉の定義が与えられ、そのような教育ニーズをもつ子ども

たちに合わせたガイドラインが示された。1975年、The Education for All Handicapped Child Act という法律は、公教育と個別教育プログラムの提供を義務付けたが、その中にギフテッドの子どもたちは含まれていなかった。3年後の1978年、The Gifted and Talented Children's Education Act というギフテッドのための法律が可決されたが、どちらの法律もギフテッドと障害の両方を併せ持つ場合があることについては言及しておらず、州の補助金の指針はどちらか一方に制限されていた。

2004年、議会は Individuals with Disabilities Education Improvement Act (IDEA: 文部科学省は「障害のある個人教育法」と訳) を再認可した。この法律は、障害と才能の両方を持ち合わせる生徒の存在について初めて言及したものであり、2Eにとって大きな影響を及ぼすものとなった。また、同法は、学習障害の識別方法として、水準以下の成績について分析するモデルの使用は最小限に留める代わりに、チームによる問題解決型のアプローチを行うなど包括的な方法を勧めている。このような共同のアプローチがうまく機能すると、通常教育、ギフテッド教育、特別支援教育の間に存在する障壁がなくなり、2Eに対する教育プログラムの作成に役立つと考えられる。

## 3. 定義

Baldwin 他 (2015) によると、50年以上に渡り2Eに関するさまざまな研究と実践が行われてきたが、統一された定義がなかった。このような問題を解決し、さらなる発展を遂げることを目指し、2013年春に2Eの専門家や関係者等による共同実践団体 The National Twice-Exceptional Community of Practice (2eCoP) が結成された。

2eCoPは、26の国立、州立、地方の団体(公立学校、大学、学校心理士、教育省、学習障害国立センター、評議会、コンサルティング会社など)から成り、2013年11月、23の団体からの出席者24名により会議が行われた。2eCoPが第一に優先したことは、2Eの定義を作成することであり、数か月間に及ぶ綿密な話し合いの結果、次のように定義された (Baldwin 他、2015:212 に基づいて筆者訳): 「2Eとは、非凡な能力と障害を併せ持つ者であり、さまざまな組み合わせが考えられる。

彼らの才能が優位なものとなり障害を隠してしまう場合がある一方で、障害が優位となり才能を隠してしまう場合もある。片方がもう片方を覆い隠すためにどちらも認識されない可能性もある。」

Kaufman (2018) は、2eCoP が示した 2E の定義は広義であるからこそ、2E の子どもたち、ギフテッド教育を受けているが障害が現れていない子どもたち、障害があるがギフテッド教育の対象となっていない子どもたちの識別に有効だと述べている。また、2E の才能や障害の内容も多様であり、才能を示す分野については、数学、音楽、言語、絵画、ダンス、スポーツなど、障害については、限局性学習障害、言語障害、情緒や行動の障害、身体障害、自閉スペクトラム症、注意欠陥多動性障害などがある。

#### 4. 2E の特性や性格

ここでは、Silverman 他 (2019) が作成した 2E の子どもたちに共通する特性や性格に関するチェックリストの一部を日本語に訳して紹介する。まず 2E の一般的傾向については、成績やテストの得点が示すよりも賢く見える、話し言葉は洗練されているが書き言葉は苦手である、時間が十分にある時はよくできるが、時間に制限がある試験などでは力を発揮できず、課題や宿題を完成させるために時間を要する、ある教科では優れているが他では平均的である、難しい課題にはよく取り組む一方で簡単な内容に悪戦苦闘する、文字については音声よりも読解の方が得意などである。

また、プラスとマイナスの記号を混同してしまう、読む時に行をとばしたりどこまで読んだか忘れたりする、書く時に間隔を設けることが苦手である、読み書きにすぐ疲れてしまう、返事をするまでに何度か反復が必要である、単語や文字の発音を間違える、音が類似している単語に混乱してしまう、不器用で落ち着かない、ペンの握り方が変わっている、手書きが苦手を書くことを避けようとする、子どもの頃、聞き手（右手あるいは左手の優位性）の決定に困難を覚えたなどである。

さらに、順番待ちや着席を続けることが難しい、成績が曜日や時間に左右されやすい、課題や宿題が時間内に終わらない、音韻処理が苦手、左右の

認識やアナログ時計で時刻を読みとることが難しい、一つの単語を複数の異なる方法で綴る、他者の感情に適切な反応を示さない、一度決めたことは容易に変更しない、嫌いな課題は拒否する、予想外の変更が生じると強いストレスを感じる、完全主義的であり過度に心配する、学校へ行くことや孤立することなどを恐れる、手を何度も洗うなどである。

## IV. 2E の在籍状況とガイドブック

本章では、アメリカ教育省の調査結果 CRDC (2015-16) を基に、アメリカの公立学校における 2E の在籍状況について報告する。また、2E に関するガイドブックの内容について報告する。

### 1. 2E の在籍状況

表 1 は、CRDC がホームページ上で公開しているデータであり、2015-16 年、アメリカ各州の公立学校におけるギフテッドの総数、人種の内訳等が記されている。表中には、Students with Disabilities Served under IDEA (太枠部) があり、これはギフテッドの中には、IDEA つまり障害のある個人教育法 (対象 3-21 歳) の対象となる人々が含まれることを示している。本稿では、表 1 の太枠部に示されている人々を何等かの障害と才能を持ち併せている 2E と解釈する。

アメリカ全土で、2E と考えられる子どもたちは約 7 万 4 千人であり、全体の 2.3% を占めている (2011-12 年は約 75,000 人、2013-14 年は約 78,000 人であった)。表中の 1 州を除く 50 州に、2 人～8 千人以上と州によって開きがあるとはいえ、その存在が確認される。2E の比率が高い州として、ウェストバージニア州 (37.8%) とテネシー州 (15.9%) が挙げられる。この 2 州が作成している 2E に関するガイドブックについて次に紹介する。

### 2. 2E ガイドブック

ここでは、2015-16 年、2E と考えられる人々の比率が高かったウェストバージニア州とテネシー州が発行している 2E に関するガイドブックの内容について紹介する。まず、ウェストバージニア州教育省はギフテッドの識別や支援等に関す

表 1

Number and percentage of public school students enrolled in gifted/talented programs, by race/ethnicity, disability status, and English proficiency, by state: School Year 2015-16

State	Total Students		Race/Ethnicity										Hispanic or Latino of any race		Black or African American		White		Native Hawaiian or Other Pacific Islander		Two or more races		Students With Disabilities Served Under IDEA		English Language Learners		Number of Schools Reporting		
	Number	Percent	Number	Percent	Number	Percent	Number	Percent	Number	Percent	Number	Percent	Number	Percent	Number	Percent	Number	Percent	Number	Percent	Number	Percent	Number	Percent	Number	Percent			
																												Number	Percent
United States	3,255,040		322,103	9.9	588,900	18.1	278,838	8.5	1,913,101	58.8	7,458	0.2	120,891	3.7	74,280	2.3	84,660	2.6	74,280	2.3	84,660	2.6	84,660	2.6	55,495	1.7	1,042	0.03	100.0
Alabama	51,694		1,099	2.1	1,878	3.6	8,303	16.1	38,981	75.2	28	0.1	705	1.4	871	1.7	767	1.5	871	1.7	767	1.5	871	1.7	1,042	2.0	100.0		
Alaska	6,590		237	3.7	352	5.5	146	2.3	4,324	67.7	96	1.5	773	12.1	150	2.3	72	1.1	150	2.3	72	1.1	150	2.3	219	3.3	100.0		
Arizona	53,061		922	1.7	2,882	5.4	1,294	2.4	29,949	56.3	136	0.3	1,995	3.2	1,082	2.0	1,695	3.5	1,082	2.0	1,695	3.5	1,082	2.0	969	1.8	100.0		
Arkansas	46,195		209	0.5	3,240	7.0	1,294	2.4	29,949	56.3	136	0.3	1,995	3.2	1,082	2.0	1,695	3.5	1,082	2.0	1,695	3.5	1,082	2.0	969	1.8	100.0		
California	424,829		1,361	0.3	91,732	21.6	14,700	3.5	121,990	28.7	2,277	0.5	17,622	4.1	8,810	2.1	16,720	3.9	8,810	2.1	16,720	3.9	8,810	2.1	5,639	1.3	100.0		
Colorado	69,065		247	0.4	3,557	5.2	1,254	1.8	16,118	23.3	114	0.2	47,826	69.2	3,162	4.6	2,798	4.1	3,162	4.6	2,798	4.1	3,162	4.6	1,591	2.3	100.0		
Connecticut	11,896		19	0.2	1,240	10.4	881	7.2	8,030	67.5	10	0.1	405	3.4	170	1.4	226	1.9	170	1.4	226	1.9	170	1.4	344	2.9	100.0		
Delaware	3,617		22	0.6	345	9.5	687	19.0	2,159	59.7	5	0.1	88	2.4	113	3.1	36	1.0	113	3.1	36	1.0	113	3.1	76	2.1	100.0		
District of Columbia	†		†	†	†	†	†	†	†	†	†	†	†	†	†	†	†	†	†	†	†	†	†	†	†	†	†	†	
Florida	164,830		380	0.2	10,158	6.2	46,395	28.1	86,572	52.5	199	0.1	5,971	3.6	822	0.5	825	0.5	822	0.5	825	0.5	822	0.5	3,040	1.8	100.0		
Georgia	189,288		336	0.2	17,633	9.3	13,698	7.2	116,051	61.3	189	0.1	7,121	3.8	2,698	1.4	1,443	0.8	2,698	1.4	1,443	0.8	2,698	1.4	1,443	0.8	2,101	1.1	100.0
Hawaii	5,080		17	0.3	2,119	41.7	61	1.1	1,137	22.4	872	17.2	567	11.2	60	1.2	686	13.5	60	1.2	686	13.5	60	1.2	155	3.0	100.0		
Idaho	7,163		48	0.7	195	2.7	452	6.3	6,261	87.4	9	0.1	165	2.3	72	1.0	53	0.7	72	1.0	53	0.7	72	1.0	310	4.3	100.0		
Illinois	68,742		115	0.2	6,986	13.1	10,468	15.3	39,894	58.0	84	0.1	3,057	4.4	1,851	2.7	722	1.1	1,851	2.7	722	1.1	1,851	2.7	848	1.2	99.9		
Indiana	126,906		191	0.2	4,583	3.6	7,972	6.3	102,944	81.1	69	0.1	4,919	3.9	3,422	2.7	2,890	2.3	3,422	2.7	2,890	2.3	3,422	2.7	1,520	1.2	100.0		
Iowa	44,083		80	0.2	1,505	3.4	2,025	4.6	38,498	87.3	33	0.1	1,084	2.5	332	0.8	188	0.4	332	0.8	188	0.4	332	0.8	1,217	2.8	100.0		
Kansas	12,708		83	0.7	879	6.9	870	6.8	9,975	78.5	11	0.1	589	4.6	964	7.6	187	1.5	964	7.6	187	1.5	964	7.6	1,020	8.0	100.0		
Kentucky	94,881		84	0.1	2,179	2.3	2,434	2.6	84,150	88.7	83	0.1	2,314	2.4	2,669	2.8	450	0.5	2,669	2.8	450	0.5	2,669	2.8	1,235	1.3	100.0		
Louisiana	29,618		139	0.5	1,544	5.2	1,343	4.5	18,889	63.8	38	0.1	647	2.2	15	0.1	168	0.6	15	0.1	168	0.6	15	0.1	1,085	3.7	100.0		
Maine	9,523		27	0.3	243	2.6	105	1.1	8,837	92.8	8	0.1	152	1.6	284	3.1	31	0.3	284	3.1	31	0.3	284	3.1	411	4.3	100.0		
Maryland	151,217		240	0.2	22,197	14.7	19,668	13.0	67,464	44.6	123	0.1	7,883	5.1	4,821	3.2	1,594	1.1	4,821	3.2	1,594	1.1	4,821	3.2	918	0.6	100.0		
Massachusetts	67,48		93	0.3	731	10.8	1,247	18.5	3,487	51.7	11	0.2	244	3.6	286	4.2	207	3.1	286	4.2	207	3.1	286	4.2	269	0.4	100.0		
Michigan	19,639		17	0.5	1,428	7.3	592	3.0	14,993	76.3	26	0.1	2,399	3.4	3,081	4.4	3,691	5.3	3,081	4.4	3,691	5.3	3,081	4.4	723	3.7	100.0		
Minnesota	69,650		416	0.6	9,473	13.6	4,401	6.3	57,026	82.2	20	0.0	2,129	65.4	903	2.7	414	1.2	903	2.7	414	1.2	903	2.7	667	0.9	100.0		
Mississippi	33,223		49	0.1	624	1.9	997	3.0	27,728	83.5	30	0.1	1,184	3.2	1,007	2.8	408	1.2	1,007	2.8	408	1.2	1,007	2.8	1,287	3.8	100.0		
Missouri	36,562		115	0.3	1,986	5.4	1,232	3.4	29,226	79.9	44	0.1	1,184	3.2	1,007	2.8	408	1.2	1,007	2.8	408	1.2	1,007	2.8	1,287	3.5	100.0		
Montana	4,943		181	3.7	68	1.4	93	1.9	4,471	90.5	9	0.2	99	2.0	82	1.7	99	2.0	82	1.7	99	2.0	82	1.7	216	4.3	100.0		
Nebraska	35,790		155	0.4	1,436	4.0	3,360	9.4	28,358	79.2	36	0.1	1,125	3.1	999	2.8	123	0.3	999	2.8	123	0.3	999	2.8	675	1.9	100.0		
Nevada	24,522		110	0.4	2,236	9.1	7,393	30.1	11,552	47.1	284	1.2	1,904	7.8	782	3.2	1,277	5.2	782	3.2	1,277	5.2	782	3.2	484	1.9	100.0		
New Hampshire	2,017		3	0.1	120	5.9	38	1.9	1,787	88.6	0	0.0	57	2.8	85	4.2	10	0.5	85	4.2	10	0.5	85	4.2	38	1.9	100.0		
New Jersey	80,038		70	0.1	16,923	21.1	10,831	13.5	44,499	55.6	233	0.3	1,212	1.5	1,955	2.4	337	0.4	1,955	2.4	337	0.4	1,955	2.4	1,321	1.6	100.0		
New Mexico	16,261		1,010	6.2	539	3.3	7,061	43.4	6,901	42.4	29	0.2	492	3.0	880	5.5	982	6.0	880	5.5	982	6.0	880	5.5	615	3.8	100.0		
New York	43,799		222	0.5	8,655	19.8	4,657	10.6	24,220	55.3	117	0.3	1,114	2.5	1,242	2.8	598	1.4	1,242	2.8	598	1.4	1,242	2.8	488	1.1	100.0		
North Carolina	170,759		1,275	0.7	9,819	5.8	12,399	7.3	123,411	72.3	146	0.1	6,340	3.7	2,107	1.2	285	0.2	2,107	1.2	285	0.2	2,107	1.2	2,309	1.4	100.0		
North Dakota	2,864		370	12.9	109	3.8	52	1.8	2,247	78.5	7	0.2	12	0.4	73	2.5	12	0.4	73	2.5	12	0.4	73	2.5	86	3.0	100.0		
Ohio	109,522		89	0.1	4,982	4.5	2,253	2.1	93,970	85.8	48	0.0	3,822	3.5	1,785	1.6	490	0.4	1,785	1.6	490	0.4	1,785	1.6	2,280	2.1	100.0		
Oklahoma	96,670		13,597	14.1	3,397	3.5	9,246	9.6	58,421	60.4	203	0.2	7,037	7.3	3,121	3.2	1,265	1.3	3,121	3.2	1,265	1.3	3,121	3.2	1,580	1.5	100.0		
Oregon	33,125		174	0.5	3,803	11.5	2,772	8.4	23,601	71.2	101	0.3	2,313	7.0	1,014	3.1	231	0.7	1,014	3.1	231	0.7	1,014	3.1	906	2.7	100.0		
Pennsylvania	60,086		51	0.1	5,295	8.8	1,989	3.3	49,204	81.9	43	0.1	1,475	2.5	3,444	5.7	59	0.1	3,444	5.7	59	0.1	3,444	5.7	2,361	3.9	100.0		
Rhode Island	148		1	0.7	1	0.7	3	2.0	140	94.6	0	0.0	3	2.0	2	1.4	0	0.0	2	1.4	0	0.0	2	1.4	5	3.4	100.0		
South Carolina	118,001		253	0.2	3,245	2.8	5,593	4.7	84,888	71.9	146	0.1	3,719	3.2	2,307	2.0	3,229	2.7	2,307	2.0	3,229	2.7	2,307	2.0	1,061	0.9	100.0		
South Dakota	2,685		56	2.1	105	3.9	37	1.4	2,390	89.0	0	0.0	64	2.4	77	2.9	4	0.1	77	2.9	4	0.1	77	2.9	72	2.7	100.0		
Tennessee	15,251																												

るガイドブックをインターネット上に公開しており、2003年と2008年版を確認することができる。2003年の時点で2Eについて説明されており(P.26)、ウェストバージニア州で2Eに該当する障害は大きく分けて、視覚障害、身体障害、聴覚障害、学習障害、注意欠陥多動障害の5つである。また、2Eの生徒がもつ弱みに比べて強みは軽視されやすく、教員は生徒の強みと弱みに配慮した特別な指導を行い、特に強みに焦点を当てるべきこと、障害に関連した弱みについては専門家と協力して取り組むべきことについて言及している。

知的能力の測定方法については、最も広く使用されているウェクスラー知能検査を含む8種類の検査名が示されている(P.18)。その中には非言語的知能検査 UNIT (Universal Nonverbal Intelligence Tests) が含まれており、英語を母語としない文化的マイノリティの子どもたちに配慮した知能検査が行われているものと思われる。

次にテネシー州教育省は、2018年に知的ギフトの評価に関する手引きを発行しており、テネシー州のギフトの定義に2Eが含まれることを明記している(P.6他)。また、歴史的に、言語的文化的に多様な人々の才能や障害は十分に識別されない傾向があったことについて言及しており、その理由として識別する手段の不足、偏った評価、教員の期待不足、人種差別や偏見、生徒の強みよりも弱みに注目する傾向、教員や管理者の専門的能力の開発不足、保護者がギフトの識別やプログラム、サービスについて十分に知らないこと等を挙げている。

また、母語が英語ではない子どものアセスメントに関わる人々は、第二言語習得の過程について理解していなければならず、母語や家庭で使用する言語能力が、第二言語の能力に影響を及ぼすこと、生徒の英語の会話能力と読み書き能力、教育経験、母語の読み書き能力などについてチームで検討し、障害の有無について決定すべきであると述べている。

ギフトの可能性のある子どもについてはさらなる検査が必要となるが、テネシー州では保護者に対する検査許可の依頼文書、検査結果、子どもの能力に関するアンケート用紙などが、英語を含む4か国語で提供されている。アセスメントの

方法については、5ページに渡りさまざまな種類の検査方法が紹介されており、こちらにもウェストバージニア州のガイドラインに記載されていた非言語的知能検査 UNIT が含まれている(P.42)。また、2Eの場合、子どもの診断、治療、医療提供者に変更が生じた場合、その情報は更新されるべきであり、3年ごとに行う再評価の重要性についても言及している。

## V. 2E 教育の実践例

本章では、2E 関連の文献や書籍で紹介されていたメリーランド州モンゴメリー郡の公立学校とカリフォルニア州ブリッジズアカデミーにおける取り組みについて述べる。

### 1. メリーランド州モンゴメリー郡の公立学校

モンゴメリー郡の公立学校(MCPS)が発行している2E教育ガイドブックの内容を基に報告する。モンゴメリー郡はメリーランド州の中央部に位置しており、1980年代から、ある分野における才能(Gifted/Talented:GT)と学習障害(Learning Disabilities:LD)を併せ持つ児童生徒(以下、GT/LD)に対し、小学校から高校まで一貫した教育プログラムを提供している。

同群において、GT/LDの多くはホームスクールを利用しているが、それでは不十分な場合、彼らを支援するための特別な環境が整った小学校、中学校、高校が各3校ずつあり、さまざまな支援を受けることができる。小学2年生から高校3年生まで対応しており、少なくとも1年に一度は、教室におけるGT/LDプログラムが個々の生徒に適切な内容かどうか検討される。また、GT/LDの専門家は学校に対して、個々の生徒に対する適切な教育プログラムについて協議する機会を提供する。

小学校については、3つの地域にある学校が各々2つのGT/LD教室を提供し、各教室には特別支援教育の教員と教育補助員が1名ずつ配置され、クラスにおける児童の平均人数は8-12人である。小学校では、児童の得意な分野を指導するとともに障害の影響を受ける分野の改善を図ることを目指している。コンピュータソフトウェアの授業などは、さまざまな感覚を使用するため、児童にとっては多様な能力を発揮し認識する上で有

用である。一般的に、体育や芸術の学習は、障害のない生徒とともにいき、昼食や休憩時間、その他活動の時間についても同様である。

中学校では、3つの地域に学校があり、障害に対する指導として、英語、読解、数学などの支援が行われ、社会や科学については、障害のないギフテッドたちと同じ教室で参加することが一般的である。付加的な指導が必要な場合は期間を延長して行われることがあり、個々の状態により学習、思考、コミュニケーション、テクノロジー、人間関係に関する指導が行われる。ケースマネージャーと呼ばれる担当者がおり、生徒の進捗状況を把握、保護者との定期的な連絡、3年ごとに行われる評価の管理、担任との相談、問題解決等に加えて、生徒が自身の強みやニーズを理解するよう助け、より良い指導に繋げるという役割を果たしている。

小学校と中学校でGT/LD向けの特別プログラムを受けた生徒の多くは、地元の高校に戻る、あるいはギフテッド向けの別のプログラムを選択することが多いようだが、それら的高校で学ぶためにケースマネージャーの支援などを継続して受ける場合もある。高校でもGT/LDの特別プログラムを希望する場合、3つの地域にある学校で特別支援教育の指導を受けるとともに、ラーニングセンターでさまざまな教養課程を履修することができるようである。

また、モンゴメリー郡の公立学校には、一般教育と特別支援教育の教員やケースマネージャー以外に、GT/LD指導の専門家（GT/LDプログラムを監督し、新しい児童生徒の配置、スタッフの訓練、教育に関する情報提供などを行う）、種々の関係者（言語聴覚士、作業療法士、理学療法士他）、学校心理カウンセラーなど多職種の人々が連携して教育支援に関わっている。

## 2. ブリッジズアカデミー

ブリッジズアカデミーの校長である Sabatino 他 (2018) やホームページの情報によると、同校は1994年カリフォルニアに設立された。プログラムは大きく分けて、小学生、中学生、高校生を対象とした内容、芸術・ロボット工学・スポーツ関連、オンラインコースに分けられる。

小学校に相当する9-12歳の生徒を対象としたコースは、5人の生徒に対して1人の教員という比率で個々の2E児に合わせたプログラムが提供されており、子どもの強み、才能、興味を通して知性、学術、創造力を伸ばすことが目指されている。具体的には、数学、科学、人文、芸術、音楽、体育、演劇に加えて、年に2回ほど、自身の興味や才能に合わせて課題を選択し、グループで問題解決の方法について学習あるいはプロジェクトを行う機会がある。課題の例としては、野球、数学の統計、エジプトのピラミッドなど、プロジェクトのテーマとしては、星や月、惑星が地球に及ぼす影響などが紹介されている。この授業は約2週間実施し、生徒は科学者、芸術科、作家、統計学者、建築家、音楽家など、どのような立場で参加するかを自身の興味や才能に合わせて選択する。

さらに、チームワーク、地域、衛生、栄養、話し方、予算や経済などの話を通して子どもたちに助言を与え、社会的、感情的発達を促す機会を十分に提供し、生徒の家族と協力関係を築くことを重視している。子どもやスタッフと働くファシリテーターがおり、子どもたちの言語的あるいは非言語的コミュニケーションスキル、聴解、問題解決、適切な感情表現、自己抑制の方法、自信を持つことなどについても支援する。

中学校では、生徒の潜在能力、強み、興味と才能に気づくための活動を行う。生徒は自身の知的、学術的、創造的、感情的なニーズを認識することを学ぶ。数学、科学、人文、芸術（絵画、三次元アートプロジェクト、写真、デジタルアート、舞台芸術、演技、歌など）、体育、メディアテクノロジー（コンピュータプログラミング、グラフィックやアニメーションの作成）などのコースがある。また、生徒たちはアドバイザーから社会的、感情的、学術的スキル等に加え、プロジェクトの状況や進路など学外の活動についても助言を得ることができる。

高校では、自己肯定感と優れた能力を育て、大学などその後の進路に繋げる活動を行う。熟練したアドバイザーや指導者のもと、現代のテクノロジーを使用して、個々の生徒に合った方法で生徒が主導的に学ぶ。個々の学習プログラムは、研究を土台とし、生徒が最大限に従事して力を発揮

し、情熱を持って生涯学び続けることを目指しており、人文系の必修科目、選択科目、生徒主導で行う Badges と呼ばれるプログラムが含まれる。

ブリッジズアカデミーは、人文系の必修科目を通して人間の文化や文明について広く学ぶことは、探求、理解、分析、応用する力の育成に不可欠と考えている。選択科目は、ロボット工学、芸術、音楽、演劇、映画、討論、執筆、コンピュータプログラミングなど多岐に渡る。選択科目はプログラム全体として欠かせないものであり、自分が選んだことを追求し専門家や指導者から学び自身の才能を伸ばす機会となる。

Badges は、個々の生徒が自身の学びを追求する授業であり、各自が選んだ分野に没頭し、将来に繋げる知識やスキルを身につける機会である。指導者からの手厚い指導の下、批判的思考、コミュニケーション、他者と協力すること、創造力、テクノロジーなどの能力を高め、さまざまなスキル、習慣、態度、専門性等をさらに発展させる。

ブリッジズアカデミーには 2E 向けのオンラインコースもある。2E 教育の専門家らが指導者となり、歴史、言語、ビジュアルアーツ、科学、音楽など多様なコースを学習することができる。コースの期間は 5-16 週で、週に 1-2 度行われているということである。

## VI. 考察

本研究は、アメリカにおける 2E の概念や実践について概観し、特別支援教育に対する示唆を得ることを目的とした。本研究から得られた知見を以下にまとめる。

第一に、2E の概念を知ることによって得られた最大の知見は、障害と才能は共存し得るということである。子どもに障害がある場合は特に、子どもの苦手なところや弱いところに着眼しがちかもしれないが、障害だけではなく、子どもの好きなことや得意なことなどの強みを発掘して認め、さらに伸ばす教育アプローチが実践されていた。これは、障害の有無を問わず、広く教育全般に有益な示唆であると思われる。

第二に、日本語で発行された 2E 関連の書籍や文献では 2E の障害は発達障害に限定されるような印象を受けるが、ウェストバージニア州の例で

は、身体障害や視覚・聴覚障害などさまざまな障害をもつ人々がその対象になり得る。多様な障害を持つ人々の才能を認め評価する姿勢が重要であると同時に、発達障害の子どもたちについては、その障害だけではなく、できることや得意なことを探しさらに伸ばすことを一層重視すべきなのかもしれない。

松村 (2018) は、2E 児に対する教育支援を 2E 教育と呼び、狭義と広義に区別している。狭義の 2E 教育は、ある分野で才能があると明確に識別された発達障害児に対する限定的なものである一方で、広義の 2E 教育は、才能が識別されていない場合も含めて、全ての発達障害児 (傾向・未診断も含む) の得意・興味を伸ばし、活かして苦手 (障害) を補うことを理念としながら、学習・社会情緒的支援を行うものである。特に広義の概念は、障害を持つ人々の優れた面を引き出すような教育アプローチの必要性を示唆するものであり、子どもの良いところに着眼して伸ばすという意味では、特別支援教育のみならず広く教育一般に役立つ考え方である。

第三に、アメリカでは各州におけるギフトッド、障害と才能を併せもつ人々の在籍状況に加えて、特別支援教育の対象となる子どもたちの障害種や人種民族的な情報もホームページ上で一般公開されている。情報公開の在り方について検討する際の参考になる。

第四に、日本の学校では、外国人の児童生徒に対して日本語で知能検査を行うことがあり、言語や文化が異なる子どもたちの障害を識別する方法や判定の妥当性について課題がある。ウェストバージニア州とテネシー州のガイドブックでは、英語を母語としない多文化背景の子どもたちのため、言葉を介さずに使用できる非言語性の知能検査 UNIT が使用されていること、また多職種の専門家がチームで障害や才能について決定を下していることが示された。今後このような検査方法や取り組み方についてさらに理解を深め、多様な障害や言語文化的背景をもつ子どもたちに対してさらに充実した支援が必要であると思われる。

最後に、モンゴメリー郡の公立学校やブリッジズスクールの例から、小学校から高校まで一貫した 2E 教育を受けられる環境があること、学校関

係者、専門家、保護者らが連携し、2E の子どもたちに教育的、感情的、社会的な支援を提供していることが明らかになった。また、両者の実践は、子どもの強みである才能を最大限に伸ばすことを何よりも優先しているという点で共通していることが示された。

## VII. 結論

本研究は、アメリカにおける 2E の概念と実践について理解を深めることを目的とし、その歴史、社会的動向、法律、定義、特性や性格、在籍状況、教育プログラム等について概観した。2E の概念は、障害と才能は共存することを教えてくれるものであり、障害と才能各々について、その種類は多岐に渡る可能性が示された。また、2E 教育の実践例では、生徒が自身の強みや才能をさらに伸ばすことが重視されていた。親や教師は、このような積極的アプローチの必要性をより一層意識しながら子どもと向き合うべきなのかもしれない、障害のある子どもたちとの向き合い方について考える上で参考になる。今後も 2E の概念や実践について研究を進めたい。

<sup>1</sup> 特別支援学校とは、障害の程度が比較的重い子どもを対象として教育を行う学校。公立特別支援学校（小・中学部）の 1 学級の標準は 6 人（重複障害の場合 3 人）。対象障害種は、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱（身体虚弱を含む）。

<sup>2</sup> 特別支援学級とは、障害のある子どものために小・中学校に障害の種別ごとに置かれる少人数の学級（8 人を標準（公立））。知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、弱視、難聴、言語障害、自閉症・情緒障害の学級がある。

<sup>3</sup> 通級による指導とは、小・中学校の通常の学級に在籍する障害のある児童生徒に対して、ほとんどの授業（主として各教科などの指導）を通常学級で行いながら、障害に基づく種々の困難の改善・克服に必要な特別の指導を特別の場で行う教育形態。対象とする障害種は言語障害、自閉症、情緒障害、弱視、難聴、LD、ADHD、肢体不自由及び病弱・身体虚弱である（脚注 i-iii は、全て文部科学省（2019）「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議資料 3-1」より）。

## 参考文献

- Asperger, H.(1944) "Autistic psychopathy" in *childhood*. In U. Frith (Ed.), *Autism and Asperger syndrome*. New York, NY: Cambridge University Press.
- Baldwin, L., Baum, S., Pereles, D. & Hughes, C. (2015) "Twice-exceptional learners" in *Gifted Child Today*, vol. 38 (4), pp. 206-214.
- Bridges Academy-Educating the exceptional <https://www.bridges.edu/> (2020年11月2日) .
- Civil Rights Data Collection (CRDC). Number and percentage of public school students enrolled in gifted/talented programs, by race/ethnicity, disability status and English proficiency, by state: School year 2015-16, <https://ocrdata.ed.gov/estimations/2015-2016> (2020年11月2日) .
- Education Department of Tennessee. (2018) Intellectually gifted evaluation guidance. TN Department Education, [https://www.tn.gov/content/dam/tn/education/special-education/eligibility/se\\_intellectually\\_gifted\\_evaluation\\_guidance.pdf](https://www.tn.gov/content/dam/tn/education/special-education/eligibility/se_intellectually_gifted_evaluation_guidance.pdf) (2020年11月3日) .
- Elkind, J. (1973) "The gifted child with learning disabilities" in *Gifted Child Quarterly*, 17(3), pp. 45-47.
- Gallagher, J. (1966) *Children with developmental imbalances: A psychoeducational definition*. In W. Cruickshank (Ed.), *The teacher of brain-injured children*. Syracuse, NY: Syracuse University Press.
- Hollingsworth, L.(1923) *Special talents and defects: Their significance for education*. Itaca,NY: Cornell University Library.
- Kanner, L. (1943) Autistic disturbances of affective contact. *Nervous Child*, vol. 2, pp. 217-250.
- Kaufman, B. (2018) Introduction. In Kaufman, B. (Ed.) in *Twice exceptional-Supporting and educating bright and creative students with learning difficulties*. Oxford Press, pp. 1-16.
- Maker, J. (1977) *Providing programs for the gifted handicapped individuals*. Reston, VA: Council for Exceptional Children.
- 松村暢隆 (2018) 『2E教育の理解と実践－発達障

害児の才能を活かす』金子書房。

文部科学省 (2016) 「別添 (参考資料) 外国人児童生徒等における特別支援教育等の状況に関する整理票・集計表」 (文部科学省に情報開示請求を行い、2019年11月入手)。

文部科学省 (2019) 新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議資料3-1 [https://www.mext.go.jp/content/20200109-mxt\\_tokubetu01-00069\\_3\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200109-mxt_tokubetu01-00069_3_1.pdf) (2020年11月5日)。

文部科学省 (2020) 特別支援教育資料 (令和元年度) 第一部 データ編 [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/material/1406456\\_00008.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1406456_00008.htm) (2020年11月5日)。

Meisgeier, C., Meisgeier, C. & Werblo, D. (1978) Factors compounding the handicapping of some gifted children. *Gifted Child Quarterly*, vol. 22, pp. 325-331.

Montgomery County Public Schools (MCPS). A guidebook for twice exceptional students-Supporting the achievement of gifted students with special needs. Rockville, Maryland: The Department of Curriculum and Instruction, <https://www.wrightslaw.com/info/2e.guidebook.pdf> (2020年11月5日)。

National Association for Gifted Children <https://www.nagc.org/> (2020年12月3日)。

Sabatino, C. & Wiebe, C. (2018) Bridges Academy: A strengths-based model for 2e. In Kaufman, B. (Ed.) in *Twice exceptional-Supporting and educating bright and creative students with learning difficulties*. Oxford Press, pp. 301-321.

Silverman, K., Gilman, J., Lovecky, V. and Maxwell, E. (2019) Teacher checklist for recognizing twice exceptional children. Denver, CO.: Gifted Development Center.

柘植雅義 (2013) 『特別支援教育－多様なニーズへの挑戦』中公新書。

West Virginia Department of Education. (2003) Reaching and Teaching- A comprehensive guidebook for identifying educating gifted students in West Virginia, <https://files.eric.ed.gov/fulltext/ED504153.pdf> (2020年11月5日)。

## 付記

本研究は、日本学術振興会科学研究費基盤研究 (A) 「外国人生徒の学びの場に関する研究－特別定員枠校と定時制・通信制高校の全国調査」 (研究代表者: 田巻松雄、課題番号 19H00604) の研究成果の一部である。

# **Coexistence of disabilities and abilities/talents**

## **Suggestions of the concept and practices of 2E in the U.S.**

MIURA Mieko

### **Abstract**

The purpose of this study is to deepen the understanding towards the concept of 2E (twice-exceptional) who have both disabilities and abilities/talents. It reports some practices for 2E, including the history, social movements, laws, definitions, identifications, the number of 2E students and educational support which have been provided in the U.S. This study states that the concept of 2E can be suggestive knowledge for students with disabilities and the field of special needs education in Japan. Also, it emphasizes the importance of educational approaches which focus on stretching various strengths of each student with disabilities out to the maximum.

(2021年6月1日受理)